

(1)

広報ひがししらかわ

〔2月〕人口の動き

人口	4,266人
世帯数	975世帯
出生	9人
死亡	4人
転入	6人
転出	8人

(2月末住民登録人口より)

広 報

ひがし

しらかわ

第 99 号

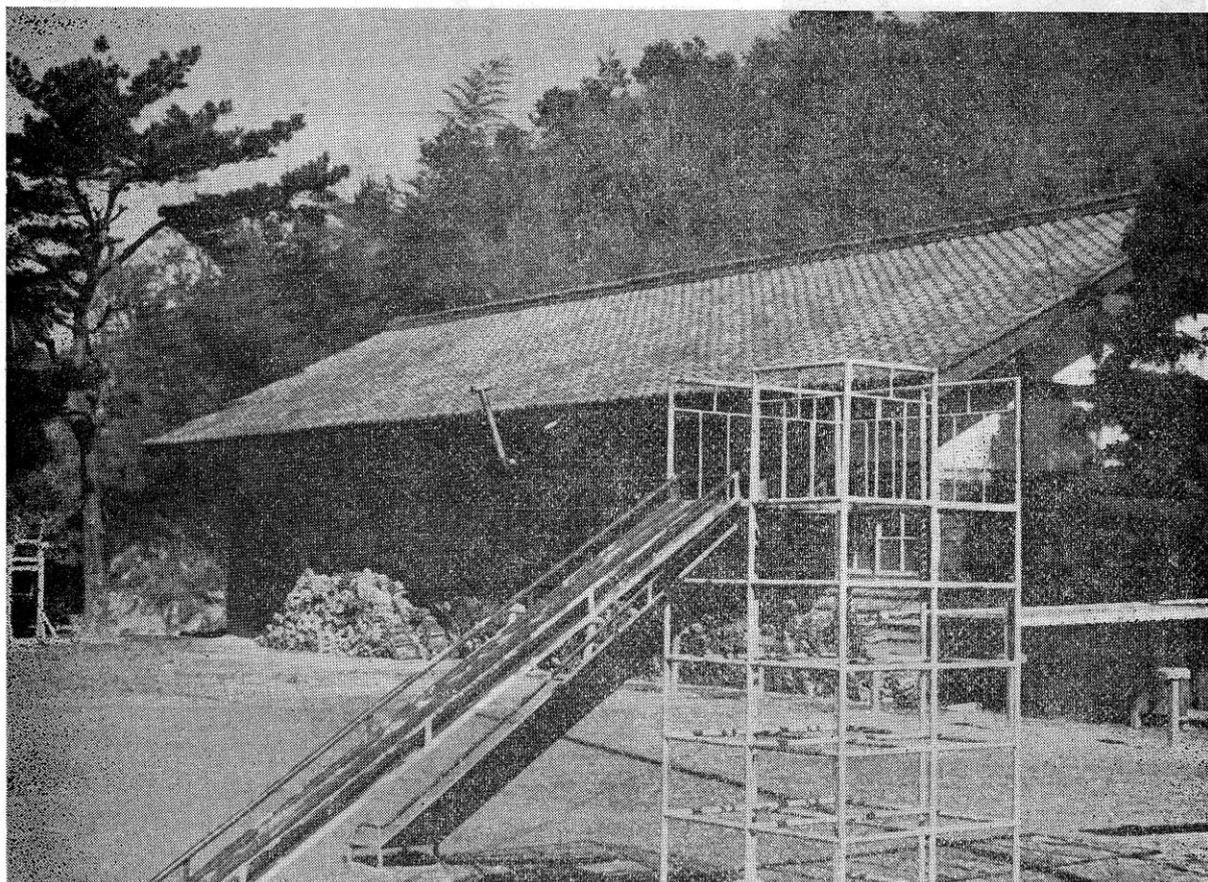
発行

東白川村 公民館
 岐阜縣加茂郡東白川村
 TEL(東白川)1番

印刷

今井印刷所

昭和42年3月15日発行



ごくろうさん分教場

薪に囲まれた小さな分教場……

60年間の長かった務めを終つて、この3月で廃校になることが決まりました。楽しいことや、つらいこと、いろいろな思い出を残してくれたこの小さな校舎に、心から「ごくろうさん」といいたいと思います。

—大明神分校の廃止本決り—

新学期からは本校へ

「大明神の分教場」と呼ばれ、村の人たちに親しまれてきた越原小学校大明神分校が廃校となり、この四月から越原小学校へ統合することに決まりました。

同分校は、明治四十二年当時、南北二つに分かれていた越原小学校を合併、そして校舎を移転させるとき、大明神地区の熱心な分校誘致の運動で、黒淵にあつた南校舎を移転開校したものです。この移転には、南校舎を一晚のうちに移転させるなど、いろいろなエピソードなども残り、今日まで六十年間にわたり七百余名が学び、ま

た、同地区の文化開発等に大きな役割を果たしてきました。

しかし、時代の進展にともなつて、現在の分校経営では充分な教育効果が得られず、児童数の減少施設の老朽化などで、数年前から統合の話が出ていましたが、このほど、再三にわたる地元、村関係者等との話し合いがまとまつたわけです。問題点となつていた通学費や道路整備等も解決し、いよいよこの四月から本校への通学が実現しました。ことしはちようと、戦後の六・三制教育実施満二十年となり、また、大明神分校ができ

た明治四十二年と同じ年号の昭和四十二年に、六十年來にわたる分校問題が解決、村の教育振興は、さらに一歩前進することになりました。

廃校となる施設は、こんご地元の経済開発に一役かつて、工場誘致などの産業施設に生まれかわることになっていきます。

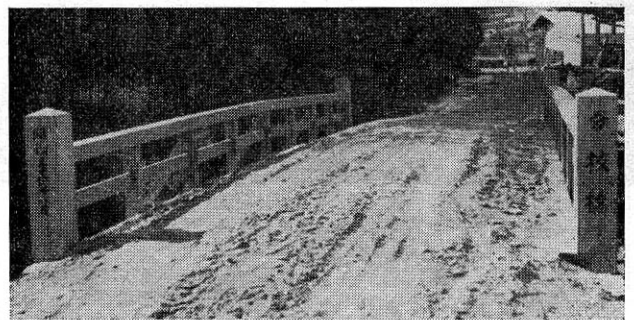
通学費は全額村費で

近く道路も全面舗装

こんどの大明神分校の統合に關連して、地元からは、本校通学に対する父兄の経済的負担の問題や地域格差の是正など、いろいろの要望がでていますが、中でも、通学費については、双方の再三にわたる話し合いの結果、一、二年の低学年に対しては、バスによる通学費の全額を村で補助することにまともりました。

この通学費補助は、従来、村では条例によつて、中学生は、片道六軒、小学生は四軒以上で、交通機関を利用して通学しているものに、その交通費を一定の率によつて一部補助していますが、こんどの分校廃止の諸条件から、分校児童分に対しては、全額補助に踏みきつたわけです。

なお、このほか、大明神までの



通学バス道路の安全確保と、村内道路整備計画の一環として、越原小学校から子護神社までの延長約五キロメートルにわたつて、ことしから二ヶ年で全面舗装するほか待避所の増設やバス待合所なども出きるようになっていきます。

なお、この道路は、主要地方道である白川加子母線と越道峠を経て、坂下呂線を経る重要道路として、近く県道昇格への運動がなされる予定です。

(写真上 分校々舎)
(写真右 長い間通いなれた分校橋)

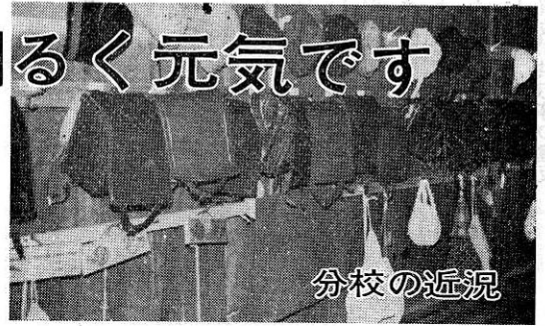
配給米に納品伝票を使用します。

四月一日から、米の配給に「納品伝票」をそえて渡されることになりました。これは、政府から登録小売店に売られた米が家庭まで正しく届けられることが目的です。この伝票には配給米の種類と単価が印刷され数量と代金を記入することになっています。配給米を購入されるときは、必ずこの納品伝票を受取るよう協力下さい。なお、登録小売店に政府から売られている配給米は、県下平均では上米が六十パーセント、並米が三十八パーセント、徳用米が二パーセントの割合ですから、一種類だけの配給を希望されても、小売店で応じられないこともありまますから、できるだけこの割合で酌給米を購入されるようおねがいします。

▼ハダのマツサージにスプーンの裏側を……

二〜三月はからつ風ではだが荒れやすいものです。週に二、三度ぐらいきれいにせつけん顔を洗いオリブをぬり、熱いたオルで二、三回とりかえながら蒸します。そのあと指先でマ

(3)



明るく元気です

分校の近況

現在、分校には河合先生と十七人の児童が元気に勉強しています。一年生が九人、二年生が八人で、一つの教室で仲よく勉強する「複式学級」の形態がとられ、先生も片手に算数、片手に国語の教科書を持つて一人二役の授業は大変なことだろうと思います。それでもせまい教室のなかには、先生、児童と一つにとけあつた家庭的な授業は何か温かみを感じられるようです。

上級生がいらないから掃除はもちろん、給食の準備まで小さなからだで、いっしょうけんめいやらなければなりません。こゝも本校と同じように完全給食、おばさんが心をこめて作つてくれる温かい給食は少しも変りはありません。五

年ほど前の広報でも紹介したように、「三十四の瞳」は、この小さな分校の畑です。すくすく育っているようにけれど……

小さな教室、小さな運動場不足した施設や設備、やはり、大きな畑で十分な栄養を与えてより伸ばしたい。

そんな願いが父兄や、村の関係者の努力でこんどこそまとまり、四月には、多くの仲間たちの中で力いっぱい勉強に、遊びにとびまわるこの子どもたちの姿を想像できるようです。
(写真は分校々舎風景)



◇けいさつだより◇

こどもを事故から守ろう

こどもは季節に敏感です。三月の声を聞くと、長かつた冬から解放されて、こどもたちは屋外で遊ぶことが多くなつてきます。ことに、ヨチヨチ歩きのコどもは軽装になるため、親がちよつと目をはなしているときに、表へ飛びだしてしまします。屈託のない、天心らんまん、こうしたこどもの命を一瞬にうばいさるのが交通事故

です。ことに四月となると、いままだ家庭内であたゝかく保護されていた新入学児童も、朝夕には、道路の通行者となつているわけです。こうした新入学児童は、村にも数多くあり、交通の知識がぜんぜんないまゝに、交通の渦中に飛びこんだとしたらどんなに恐ろしい結果になることでしょうか。昨年一年間に県下で、まだ通学していない幼児と、小学生で亡くなつた子は二十七人、けがをした子はなんと千三百四十八人にもなつています。この事故の原因を調べると――道路で遊んでいたとき、――幼児

の一人歩き、――道路への飛びだし――車の直前直後の横断、などとなつています。

そこで、この四月から小学校へ通うようになるこどものある家庭では、こうした悲しい事故の犠牲者とならないよう、入学前に歩行者としての交通ルールの基本を、しつかり教えておきましょう。その基本は次のとおりです。

- ▼歩道のないところでは、必ずず道の右側を歩くこと。
- ▼赤、黄青の信号の看法方。
- ▼道路を横断するときは、必ずず手をあげて渡る。

▼登校、下校は集団で行なう。

そのほか、学校までのいちばん安全な道を選び、何回も親子で歩いてみて、実際に歩きたかを教えることも大切なことです。道順としては、たとえ近道でも、自動車のよく通る道はさけることです。新学期になると、警察をはじめ、交通安全協会の人、交通安全対策協議会モニター、PTA、学校の先生が、登下校時に街頭に出て、児童の交通安全を指導しますが、一般通行者、運転者、とくに気をつけて、児童、幼児を交通事故から守つて下さい。

ツサージをしますが、指がかさかさしていると、かえつてハダを痛めます。小さいスプーンの裏側を利用すると効果的です。

▼おふろの湯をぬいたあと……

底の部分はなかなか乾きにくいものです。タオル二枚をぬい合せた細長いぞうきんを作り、ぞうきんの一端を排水口におしこんで、ふろの底に拡げておくと短時間に水気を吸いこんで早く乾きます。使つたあとのぞうきんはよく水洗いをしておきましょう。

▼ふきのとうのアク抜き……

ふきのとうはアクの強いものです。細かくきざんで、二、三度水をかえ、二時間ぐらい水にさらします。そのままなら、外皮をむいてよく洗い、水カツプ三杯に小さじ一杯程度の重曹を入れて二、三分ゆで、火をとめて汁がさめるまでおいてから水でよく洗い、かたくしぼります。



統一地方選挙近づく

村長村議選は4月28日

県議選は4月15日

ことし三月一日から、五月三十一日までの間に任期が満了する市町村長や議員などの選挙は、臨時特別法の規定により統一して行なわれることになりました。

この法律によつて決定した日程は次のとおりです。

▼県議会議員選挙

告示 三月三十一日
投票日 四月十五日

▼町村長、町議会議員選挙

告示 四月二十一日
投票日 四月二十八日

地方選挙は私たちにとつて、一番身近な選挙で地方自治の土台ともなるものです。選挙のルールを守つて、みんなの手で明るく正しい選挙を推進しましょう。選挙管理委員会では、村内有権者のみなさんが、明らかに違反となる次のような事前運動を監視し、良識のある批判を示してほしいと望んでいます。

買収、供応等の違反

文書の配布、掲示違反

- 氏名入りの印刷物、チラシ等を選挙区内に多数くばること。
- 氏名、写真だけのはいったポスターを選挙区内に、多数掲示すること。
- 経歴書、あいさつ状、氏名入りのタオル、マツチ、時刻表等をくばること。
- 講演による違反
- 講演会、各種会合に出て「こんどの選挙には是非応援を頼む」等依頼すること。

の福祉の向上をめざす機能や、役割がどうしても必要です。

このような、社会全体の発展にとつて必要な働きになつていのが、国や、都道府県や、市町村

の活動は停止してしまいます。私たちの生活の安定は保てず、道路港湾などの公共施設は荒廃し科学技術の進歩も、経済の発展も社会保障の充実や、貿易の振興も望め

○部落会の席上「こんどの選挙にはぜひ私を推せんして下さい」と依頼すること。

○個別訪問などの違反

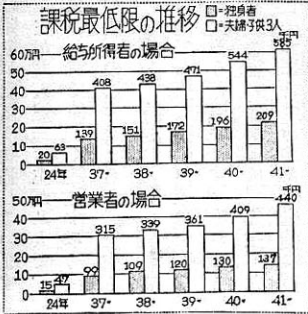
○選挙区内の有権者宅を個別に訪問し、協力方を依頼すること。

(候補者は…自分で決めよう)

農家の皆さんは、ぼつぼつ苗代づくりを始められたことでしょうか。ところで、稲でも、麦でも、あるいは草花でも、育てる皆さんが考えられることは第一に「よい種子」

を選ぶことではないでしょうか。この種子が悪ければ、どんなに手入れを良くしても満足な結果が得られません。ですから、立派な農家はまず「種子」を選びます。他人まかせにしないで自分で選ぶのです。今度の地方選挙も、その種子を選ぶと同じような気持ちで、候補者を選んで下さい。他人まかせにしないで、あなたの目で見、あなたの耳で聞いて、あなたが自分で確かめて、信頼できる候補者に一票を入れましょう。

私たちが、この社会のなかで平和に豊かに暮らしていくためには個人の活動だけにまかせられないさまざまな働らきが必要です。つまり、生命、財産の安全を保ち、社会生活のルールを維持し、教育を普及させ、あるいは、災害を防止し、道路や港湾を整備し、病気や失業の恐怖から国民を守るといった、共通



所得税のかからない限度は毎年引きあげられています



税の目 (6)

村であり、その活動のための費用をまかなうものも直さず税金です。

もし、税金というものがなかったら、国や、都道府県や、市町村

は、私たちの日常生活と深い関係をもつています。なかでも所得税は、国民のひとりひとりがそれぞれの所得に応じて負担するという意味で私たちの生活にもつとも身近な税金といえます

そこで今回は、所得税の課税最低限についてとりあげてみました。課税最低限とは、この金額まで所得があつても、所得税がかからないというぎりぎりの金額のことです。この額は、昭和二十四年からいままでの課税最低限の移り変りをまとめたものです。

新聞やラジオやテレビで話題になつていのように、図の中の数字が、やがて八十万円になり百万円になる日も、そう遠くないと思ひます。

知っておきたい 印鑑の話

実印と認印

一般に用いられる個人の印鑑には「実印」と「認印」とがありませんが、みなさんはどのように違うか知っていますか。印判屋の店先に並べられ、一個百円ぐらいの安物の印鑑が認印で、名前まで彫つたものや、むつかしい彫りかたをして、立派なサツクに入れてあるのが実印だと思つている人もあるかと思いますが、そうではありません。

実印とは、役場で登録(届け出)を受けたものなのです。ですから既製品の安物印鑑でも、実印にしようと思えばすぐできます。またどんな立派な印鑑でも登録を受けていなければ、それは認印なのです。

印鑑の登録

印鑑の登録を受けた人は、本人みずから、登録を受けようとする印鑑を持って、役場住民係で届

けを出して下さい。もし、病気その他の事情でどうしても本人が出られない場合は、委任状を作つて他人に依頼することもできます。登録の変更

現に登録を受けている印鑑が、破損して使用できなくなつたときとか、紛失したときは、新しい印鑑に登録を変更することができます。変更するときは、現に登録を受けている印鑑(紛失した場合を除く)と、新しく登録する印鑑を持参して下さい。この場合も他人に依頼される場合は委任状が必要です。

登録の消除

登録を受けている印鑑を紛失したときとか、登録をやめたいときは届け出て下さい。紛失した場合は

のほかは、その印鑑を持参して下さい。

印鑑証明書

印鑑証明というのは「印影があらかじめ登録されている印影と同じである」という証明です。ですから登録を受けている印鑑は、いつでも印鑑証明を受けることができます。証明書の必要なときは、本人が役場へきて請求して下さい。この場合、本人が出られないときは委任状を作つて他人に依頼することができます。

委任状

これは本人が自署したものでなければなりません。明らかに他人が書いたとみなされるもの(例えば、委任された代理人が、係員の前で作成したもの)は委任状とは

いえませんが印鑑証明には応じられません。印鑑の登録、変更、消除等の場合も同じです。委任状の用紙は役場にありすし、四月からは組長さん宅にもおあづかり願う予定です。また、用紙のないときは普通の紙で結構ですので、代理人の住所、氏名、委任事項、委任者の住所、氏名を明記して下さい。

印鑑をもつと大切に

私たちの国では、ハンコ万能主義といわれ署名よりも重視され、一片の印鑑証明で莫大な財産が左右されます。ですから、登録を受けた後の印鑑(実印)の保管行使については充分注意して下さい。多くの事故は、代理人によつて申請される場合に起きています。経

これは、どういつた団体でも多

かれ少ななれあることだと思ふ。むずかしい問題である。社会機構の複雑化にもなつて、われわれの視野、知識が向上しているなかで、恒例の研修や行事だけでは魅力がでてこないのかも知れない。だから、「やめたい」という人も多くなる。なにか「いちごっこ」の感がしないでもない。

済の発展とともに、印鑑証明の必要度も多くなり、その結果、印鑑の重要性を考えるより、楽に事を運ぶことのほうが優先して、代理人による届け出や申請が多くなりそれだけに事故の危険性も増大しているといえます。ますます印鑑証明が重要視されてきたのに、反比例するかのうちに、本人がやらなければならぬこの重要なことを、代理人に委任するなど、印鑑に対する觀念が薄れてきているようです。今一度よく認識し、軽卒に実印を押ししたり、むやみに代理人に委任したり、借すことなどはやめたいものです。係でも、登録や証明について、特に代理人による場合の委任状には注意しています

各種団体は昭和四十二年度に

あたり、じつくりと、自分たちのやりたいこと、学びたいことを考えてスタートしてもらいたいと思ふ。また、今年度でやめようと思つている人があつたらもう一度考えてみよう。歩調を合せて進める団体に加入している喜びは、人がつくるものでなく自分でつくりあげる、そんな考えで、団体活動をより活発化してほしいと思ふ。



ことしも三月が終ると、いわゆる年度がわりとして、各種団体の役員問題、入退団の問題がいろいろ聞かされてくる。大事な問題だから慎重に議論を戦わせるのは当然のことと思ふ。

しかし、そのなかで考えてみたいのは、あくまで各種団体の

なんでもどうぞ………

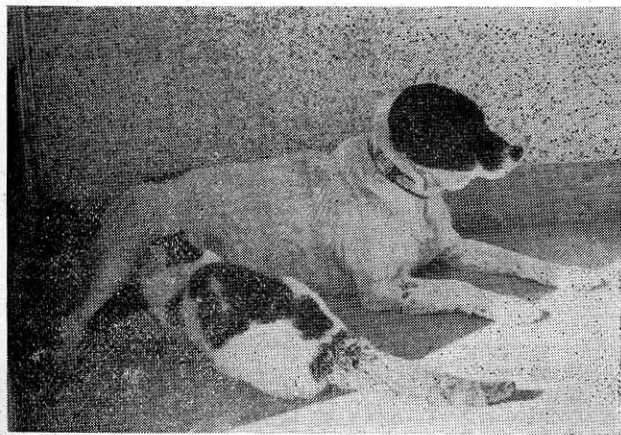
こゝは皆さんのページです

広報「東白川」が来月でいよいよ百号を迎えることとなります。昭和三十一年発行してから十一年間、村と皆さんとの連絡紙としてどうやら今日まで続いてきました。最近ではマスコミの発達で、ニュース的なことはいち早く皆さんの目や耳に入ります。そういったことから一月一回の広報は、当然ニュース的なことよりも、そのひと

つひとつのものをできるだけわたくしく解説し、いわゆる新聞としての役割りを果たしていかなければなりません。社会機構がますます複雑化し、私たちはよりそういうことを理解していかなければ、たちおかれてしまいます。自分の生活に目を向けることはもちろん、広い村の行政、ひいては国の行政にも

目を向けていきたいものです。村の広報や県広報は、そういったことに利用して下さい。

広報百号をひとつの節(ふし)として、より親しまれる広報にするためにモデルチェンジをします。今月号は、そのための試金石ですが、まず、いままでの四角いワクを思い切つてはずしました。ワクの中へ押しこんだ記事は何かしら息苦しい感じがしないでもありません。記事の長短に関係なく埋めていこうと思います。また、題字「広報東白川」を「広報ひがししらかわ」としてみました。一年生のこどもでもこの広報に親しんで



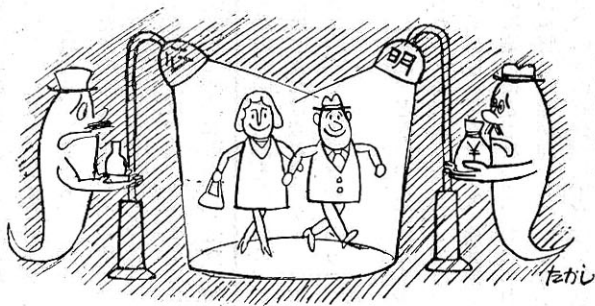
ワンちゃん ニャンちゃん 仲良し

「犬猿の仲」と同じように、犬と猫も昔から仲が悪いとされています。ところが、神戸中通の今井正男さん宅の愛犬「リー」は、昨年の夏、近所からもらわれてきた子猫と大の仲良し。…暖かい日ざしをあびて、気持ちよさそうにお乳を飲ませています。「リー」は、昨年十月赤ちゃんを産みましたが、それぞれもらわれてしまつて、いまは、子犬のなかへまぎれこんで乳を飲んでた子猫だけとなつても、あいかわらずかわいがつています。それでいて、おたがいの本職は忘れないで「リー」は番犬として、子猫はせつせとねずみをとつているそうです。互いの絶えない人間社会でも少しは見習いたい光景ではありませんか

ただいろいろなことを考えますが、多くが、アイデアで作りあげていくことを一番の目標にしたいと思います。

選挙は公明

あの手、この手のおばけも明るところには出られません



私たちの村の政治に関すること仕事に關すること、質問や、意見を聞かせて下さい。村の皆さんの部落で起つたこと面白い話、めづらしいことなどしどし知らせ下さい。俳句、短歌、詩、作文、写真などの発表の場として利用されても結構です。様式は自由ですが、役場内広報係までおねがいします。

文芸

～俳句～



神戸 阜川 (正樹)

さくやきは

しづれる雪か 笹ずれか

脳天に

しづれ落しぬ 天狗風

唄刻む

首や冬木の けらつゝき

研ぎたての

斧や冬木に 広き肩

冬川に

肩そびやかし 烏帽子岩

キャンプ場

冬され顔の 川原松



あれも載せたい、これも載せたいと思つているうちに、切日、批評をいただきたい広報紙としては貧弱な内容になつてしまいました。就職、進学で村を離れる人のなかで希望者に広報を送りたいと思つています。係まで連絡下さい。